

# 「色をテーマにしたマンガ制作 車の塗装の秘密」

芸術学部マンガ学科 教授 細萱 敦

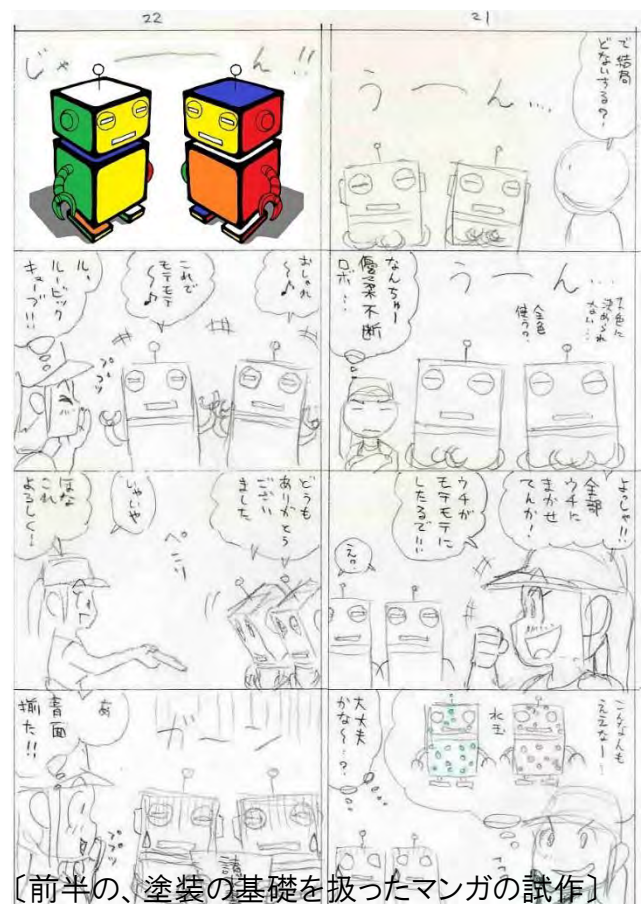
共同研究者:大山哲也(マンガ家)

塗装業界関係者への聞き取りをもとに、自動車塗装をめぐる技術的な解説や、ボディカラーのトレンドにまつわるエピソードなどを、4コママンガで紹介するという試みである。

両者が調査・取材を、細萱がコーディネート、大山がマンガ制作という分担で行った。きっかけは元関西ペイントの重役・石渡淳助氏にうかがったお話であった。同社は戦前・戦後を通じて公共交通の車両塗装を一手に担っており、高度成長期の鉄道・自動車産業を支えてきた、その時代の興味深いエピソードには事欠かない。

ただ、大山氏と協議して、いろいろなところで紹介されている新幹線などの鉄道のエピソードよりも、意外と知られていない自動車塗装のほうにテーマを絞りつつ、基本的な塗装の概念や技術的な問題はしっかり扱っていくという方針を定めた。

マンガの章構成やキャラクターの設定を協議し、前半の「そもそも塗装とは？」編にいじられ役の双子の



ロボット(旧式!)を登場させることや、後半の「自動車の塗装のあれこれ」編には車好きのキャラクターを登場させること、全編の進行役キャラクターとして、修理工場を切り盛りする関西弁(石渡氏がモデル)の女性を設定することを決めた。

取材・調査は前半に関しては大山が、後半を細萱が担当した。大山はさすがに理工系への強みを発揮して、

塗装の作業工程をしっかりとマンガに組み込み、作品は40本に及んだ。

課題となったのは、後半で実際の車の色をマンガで再現する手法であった。結局作品中では概念的に色を扱うこととし、ボディカラートレンドに関する部分は記事として詳述し、マンガ内では軽く扱うにとどまった。

今後作品発表としての展示などの機会、毎年発行されている『AUTO

PAINT COLORS』などの色見本を効果的に活用し、例えば日進月歩のメタリック系塗装や、生活感あふれる変なネーミングの軽自動車の色などの実際を紹介していきたい。

皮肉なことに、自動車メーカーが塗料業界と創意工夫して、トレンドカラーを開発・宣伝しても、ユーザーは相変わらず白好みであることなど、まだまだ興味の尽きない領域である。

